



県宝

白岩観音堂

(茅野市)

白岩観音は、元は永明寺山中腹にあり諏訪七観音の一つとして信仰を集め、元禄年間(1688~1704年)に藩主・諏訪忠虎の命で現在地に移されたといわれる。現在の観音堂は安永3(1774)年、立川流初代立川和四郎富棟によって再建された。江戸での修業から諏訪に帰り第1作目の建築となる。

銅板ぶきの入り母屋造りで、放射状に組まれた垂木が印象的な建築。向拝の正面の虹梁の上には龍の彫刻があり、柱の木鼻には正面に唐獅子、側面に獺があしらわれている。唐破風の懸魚には菊、その奥には鳳凰の彫刻が施されている。

後に下諏訪町の諏訪大社下社秋宮なども手掛け、江戸時代の寺社建築で名声を

博した立川流初代富棟の初作として、立川流の建築の原点を知る上で貴重な建造物といえる。



1989年2月23日指定

所在地/茅野市塚原2-8-2

連絡先/惣持院 電話0266-72-6049